

# 赤石岳・聖岳縦走山行記録

記 鳥切昇治



兎岳から南アルプスの雄大な眺め(赤石岳へ続く峰々、荒川三山、白根三山、塩見岳、中央アルプス)

山 域:南アルプス 赤石岳(3120m)・ 聖岳(3013m)

期 間:2016年7月28日(木)～7月31日(日)

メンバー:鳥切 昇治単独

7月28日(木)天候:晴 アプローチ(横浜～樫島)

戸沢橋を渡るまで大渋滞だったが厚木 IC から東名に入る。御殿場の先で新東名に入る。走り易く、トンネルが多いのにトンネル内の圧迫感が無い。駿河湾・沼津SAで昼食休憩。カーナビをセットしたらどうもルートが予想と違い、到着時間も16時近い。これでは最終の送迎バスに間に合わない。以前畑薙臨時駐車場まで行っているのだからカーナビに頼らずに走ることにする。新静岡ICで下り、井川ダムを目指す。新静岡ICを出て県道27号から189号に入る。この道は道幅が狭くカーブも多く走り難い。富士見峠手前で県道60号に入り、富士見峠を越え井川ダムまで下る。ガスも出て視界が悪いのでライトを付けて走る。ダンプが対向車で来ると交わすのに大変。慎重に走る。

井川ダムまで来るとホッとする。畑薙臨時駐車場に14時40分着いた。特殊東海フォレストの無料送迎バスの最終は15時30分で間に合って良かった。特殊東海フォレストは以前東海フォレストと言って社名が変わったようだ。榎島ロッジ、百間洞山の家(静岡市)や、赤石小屋、赤石岳避難小屋(静岡県)を委託されて運営している様だ。静岡県の南アルプス一帯の山林は、特殊東海製紙の社有林になっていて、特殊東海フォレストは東海製紙の関連会社のようだ。送迎バスは榎島まで小一時間走る。榎島ロッジに着いて宿泊手続きをした後、部屋にザックを置いて明日の登山口を確認して来る。榎島の標高は、1120m。明日は長丁場になるので朝食は弁当にしよう。部屋はロッジの一番奥右側、4人が雑魚寝スタイルで寝る。夕食前に風呂に入る。夕食は最終組で、部屋に戻ると他の3人は灯りを消して寝ていた。

コースタイム

(往路) 自宅 9:23—10:37 厚木IC—(東名・新東名)—11:25 駿河湾・沼津SA12:20—新静岡IC12:43—14:40 畑薙臨時駐車場 15:30—(送迎バス)—16:35 榎島ロッジ(泊)

7月29日(金) 天候:曇時々晴れ間 榎島～赤石小屋～赤石岳～百間洞山の家

3:15am 起床。朝食は弁当を食べて出発する。まだ暗いのでキャップライトを点け、神社の所から林道に出る。昨日確認しておいた登山口の鉄の階段を登り、樹林の中、ジグザグの急坂を登る。ユックリ歩いているのに異常なほど汗をかいている。40分程登って尾根筋に出る。明るくなって来た。



赤石小屋へ4/5標識まで登って来た

赤石小屋まで 1/5 の標識が出て来た。樹林帯で眺望も悪い。どれ位歩いたのか距離が分からない。1/5～4/5 標識を目安にして登る。シラビソ樹林の中を4/5 標識まで登って来た。3回目の小休止をとる。ポッカ返しの標識を過ぎると急登となり、なだらかになると赤石小屋まで30分の標識が出て来て、4時間ほどで順調に赤石小屋(標高 2535m)に着いた。



赤石小屋へ1/5標識が出て来た



赤石小屋(標高 2535m)

上空はガスで何も見えない。赤石小屋の前にある水槽で水を補給する。渴いた喉に冷たい水がおいしい。緩やかな道を富士見平へ向う。展望が良い富士見平では残念ながら雲で荒川三山、赤石

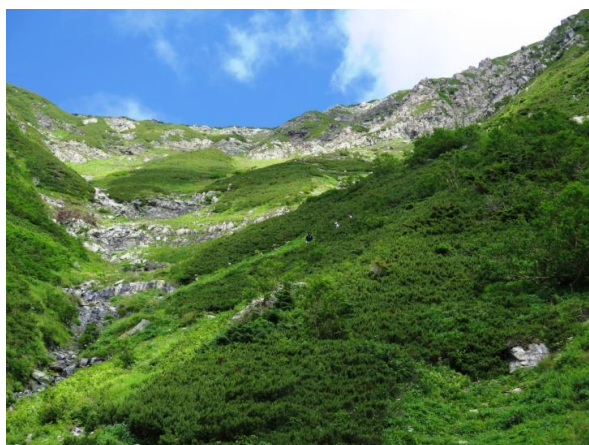


富士見平 荒川岳は雲の中

岳は見えなかった。ここから少し下り、尾根筋の左側をトラバースする。栈道が架けてある箇所が多く注意して歩く。栈道を過ぎ、ルンゼに水が流れている所で小休止。喉を潤し、急登に備えエネルギーを補給する。



トラバースルートの栈道



赤石岳の稜線へ最後の登り

小赤石岳の急登にかかる。ガスが切れて青空が覗き、暑い日差しが射す。賑やかなパーティが



稜線の分岐から赤石岳

這い松の中を下りて来る。行き交う時、彼等は北沢の源頭で喉を潤していた。北沢の源頭を左にトラバースして尾根を登って行くと、赤石岳と小赤石岳の稜線の分岐に出た。赤石岳は左手に見えるが、他の山は雲の中で見えない。ザックが多数デポしてある。

赤石岳へ向う。15分ほどで赤石岳山頂に到



赤石岳山頂(3120m)で

着。山頂にいた人に写真を撮ってもらい、右下にある赤石岳避難小屋へ行く。時間はまだ11時半、体調も悪くないので百間洞山の家まで行くことにし、避難小屋前のベンチで大休止する。御殿場市の高根から来たと言うご夫婦と話をしながら昼食を摂る。



百間平



百間洞山の家が見えてきた

眺望が良くない中、百間洞山の家へ向う。石が堆積した急坂を下る。所々にお花畑があり、和ませてくれる。百間平まで尾根道を快適に歩く。百間平を過ぎ、急坂の下りとなる。石がゴロゴロして歩き難い。視界は相変わらず悪く、森林限界が近くなって来た。道を間違えてないか心配になったが地図では分岐道は無いので下って行くと、林の中に赤い屋根の百間洞山の家が見えて来てホッとす。

テント場を通り、沢音がする百間洞の右岸に建つ百間洞山の家(標高 2470m)に14時過ぎに到着。割り当てられた3階の天井が低い板の間の部屋にザックを置いて、外のベンチで湯を沸かし、コーヒーを飲む。



百間洞山の家

この小屋は夕食にトンカツを出すことで有名だそう、そのトンカツを食べ、明日の英気を養う。明日も長丁場なので早々に休む。朝食は4時半だが、時間前に食べられると言うので朝食を食べてから出発することにした。

宿泊客はかなり多く寝る場所が狭かった。



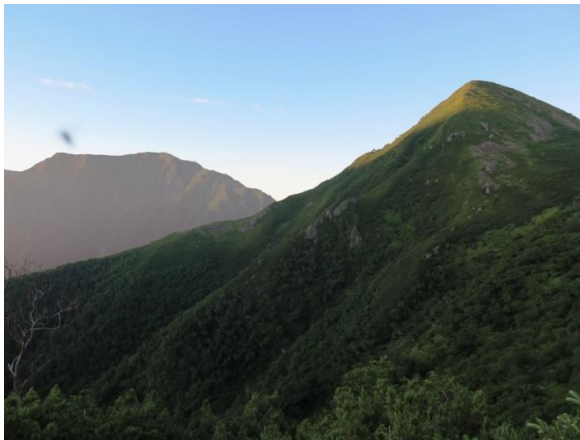
夕食はトンカツだった

## コースタイム

樺島ロッジ 4:06—(5:00~5:06) (6:08~6:15) (7:12~7:20)—8:19 赤石小屋 8:28—9:03 富士見平 9:05—9:57 水飲み場 10:05—小赤石岳分岐 11:05—11:20 赤石岳 11:25—赤石岳避難小屋 12:13—13:34 百間平—14:19 百間洞山の家(泊)

## 7月30日(土)天候:晴・曇 百間洞山の家~聖岳~聖平小屋~上河内岳~茶臼小屋

4時10分に朝食を食べることが出来、予定より早く小屋を出発する。天気は良い。茶臼小屋まで長丁場のスタートだ。中盛丸山への登りがきつい。途中で富士山が霞の上に見え、聖岳にも陽が射して来た。



聖岳(左奥)と中盛丸山(右)

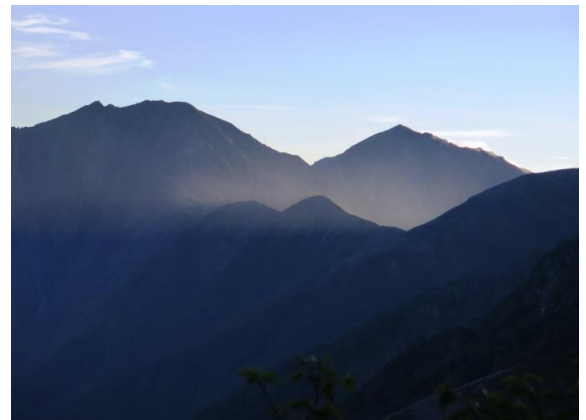
森林限界を越え稜線(大沢岳分岐)に出て、おむすび山を思わせる中盛丸山に登る。中盛丸山(2807m)山頂からの眺めは素晴らしい。小兎岳、兎岳へアップダウンが多い稜線を



中盛丸山から兎岳へ向う



富士山が霞の上に見えた

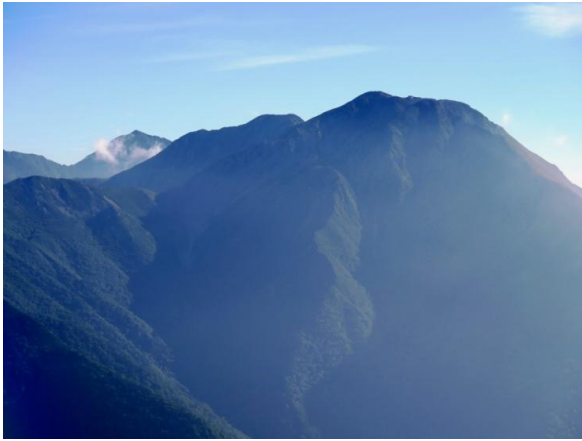


中盛丸山から荒川岳(右から東岳・中岳・西岳)

歩く。兎岳(標高2818m)山頂からの360度の眺めも素晴らしい。山頂の岩の間にタカネビランジの花が見事に咲いていて心が癒される。これから向う聖岳を見ると起伏が激しい



兎岳山頂に咲くタカネビランジ



兎岳から赤石岳と荒川東岳(左奥)

稜線が続いている。一旦、兎岳と聖岳のコルまで岩稜を下り聖岳へ登り返す。風が冷たくなり長袖シャツを着る。時折ガスが湧いて来て日差しが遮られる。赤い岩がある一帯を通過する。赤石岳では見なかった岩だ。



兎岳から聖岳へ向う稜線



聖岳(3013m)山頂



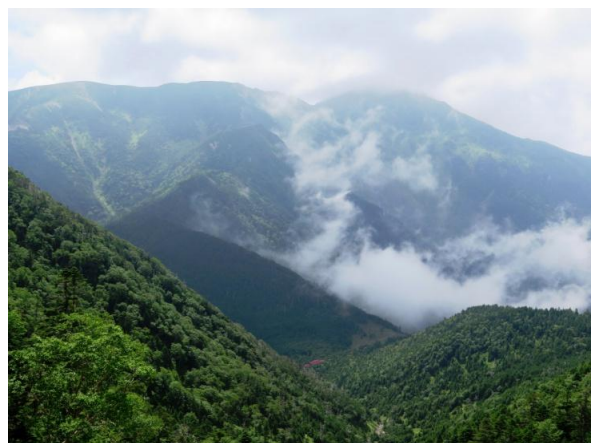
聖岳山頂で

聖岳山頂に9時前に到着。百間洞山の家から3時間半で来た。山頂は晴れているが周囲の山は残念ながら雲に覆われていて見えない。



小聖岳(聖岳はガスの中)

目指す上河内岳も雲の中だ。奥聖岳には行かず下る。



上河内岳と眼下に聖平小屋が見える

ガレ場のジグザグの道を滑らないよう注意して下る。尾根筋

に出て下って行くと風雪に耐えて立っている標識がある小聖岳に着いた。振り返ると聖岳がガスで見え隠れしている。上河内岳も時々ガスが切れ姿を見せる。尾根筋を下って行くと樹林の中に赤い屋根の聖平小屋が見えてきた。

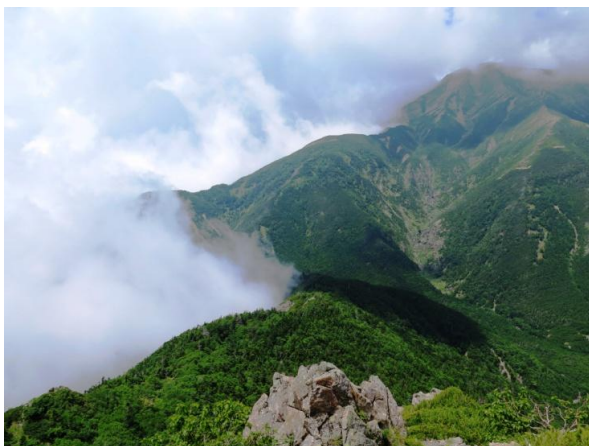
森林限界以下に入る。所々にお花畑があり、ツブキの中にリンドウが沢山ある。イブキトラノオが群生している所もある。立ち枯れた木が目立つ草原に出た。分岐点に聖平小屋の標識が



聖平小屋

念の為、運営が同じ茶臼小屋の宿泊予約をお願いした。

受付の前にフルーツポンチが置かれていて、ご馳走になる。聖平小屋を発って上河内岳に向う。シラビソ林の中の道は歩き易く涼しい。



南岳側から聖岳を振り返る



あざみ畑付近のお花畑

あり、木道を歩いて聖平小屋へ行く。聖平小屋はシラビソ林の中にひっそりと建っていた。時間は10時半を回った所で茶臼小屋まで十分届くと判断し、小屋前のベンチで昼食の大休止とする。



シラビソ林の中の歩き易い道



森林限界を抜け南岳が見えて来た

南岳まできつい登りが続く。這い松帯に入り、振り返るとガスに覆われた聖岳が大きく見える。南岳(標高 2702m)山頂に到着、正面に上河内岳がどっしりとした山容が見えている。南岳から一旦下り、高山植物を眺めながら緩く登って行く。



**南岳から上河内岳**  
(標高 2803m)に登る。山頂からの眺めは残念ながらガスでダメだった。

上河内岳の肩まで戻り茶臼小屋へ向う。ガスの中、森林限界に入り、上河内岳の肩から小1時間ほど歩くと茶臼小屋分岐に着いた。

茶臼小屋まで7分とある。地図では茶臼岳ま



**茶臼小屋(標高 2450m)**

で30分とある。時間的には登れるが、ガスの中では眺望も悪いので諦めて茶臼小屋へ下る。茶臼小屋は標高 2450mにあり、赤い屋根、2階建てで外階段を上がって部屋に入る。

この日は宿泊客が少なく、ゆったりと休むことが出来た。夕食に刺身が出ておいしく頂いた。



**南岳(標高 2702m)山頂**

眺望は良くないが、ガスで日差しが遮られて涼しい。上河内岳の肩に着いた。標識に上河内岳山頂まで15分とある。ザックを置いて上河内岳



**上河内岳(標高 2803m)山頂で**



**夕食に刺身が出てビックリ!**



明日は下山する。井川観光協会の送迎バスは、畑薙大吊橋を10:40と13:40なので10時40分に予約した。畑薙大吊橋から畑薙臨時駐車場まで歩くと1時間半ほどかかるので乗り遅れないように下山したい。

コースタイム

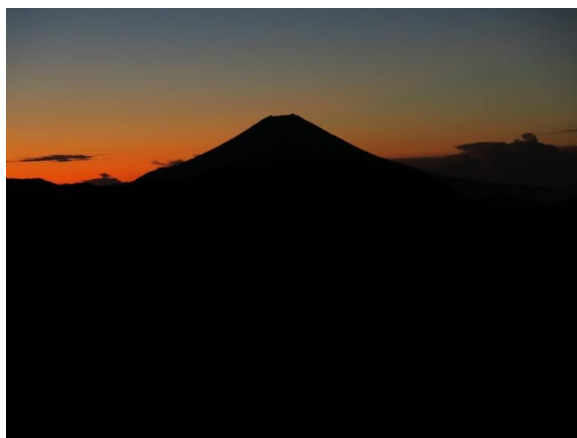
百間洞山の家 4:37—5:27 稜線—5:43 中盛丸山 5:50—小兎岳 6:27—7:07 兎岳 7:14—8:58 聖岳 8:06—9:42 小聖岳 9:45—10:37 聖平小屋 11:00—12:44 南岳—13:19 上河内岳肩 13:24—13:33 上河内岳 13:35—13:40 上河内岳肩 13:42—14:36 茶臼小屋分岐—14:47 茶臼小屋 (泊)

7月31日(日)天候:晴 茶臼小屋～畑薙大吊橋～畑薙臨時駐車場～帰宅

快晴の朝を迎えた。赤くなった水平線の空に黒い富士山のシルエットが見える。朝食中に日の出を迎えた。予定より早く茶臼小屋を出発、草付きをトラバースしてシラビソ林の中に入り尾根筋を下る。涼しいので沢筋にある横窪沢小屋

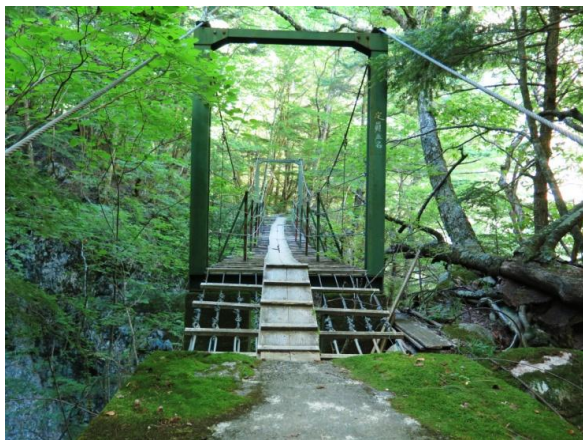


横窪沢小屋



茶臼小屋から富士山のシルエット

まで一気に下る。小屋の前で一休みしてから橋を渡り急坂を登る。横窪峠まで短い辛い登りだった。急坂にかかる鉄製の階段を下り、吊橋を渡る。少し登ると無人のウソッコ沢小屋に着く。色鮮やかなイシグロセンノウがひっそりと咲いて



幾つか吊橋を渡る



オレンジ色のイシグロセンノウ

いた。

ここから沢に沿って下り、吊橋を四つ渡り、又登りになる。ようやく着いたかと「ヤレヤレ峠」の標識を見る。ヤレヤレ峠とは良く付けたものだ。又急坂を下る。トラバースして急坂を下ると畑薙大吊橋に出た。この吊橋は、長さが181.7mあり、一度渡ってみたかった。動画を撮りながら渡る。

例年なら吊橋の下は畑薙湖の水面があるようだが今年は渇水のように川が流れている。

渡り切って9時に林道に出た。

送迎バスの時間まで1時間半ほどある。歩くことを考えたが暑いのと駐車場に着く時間が大差ないのでバスを待つことにする。送迎バスに乗り込むと満席になった。畑薙臨時駐車場で降りて下山届けを提出、車に戻る。

着替えをせずにそのまま畑薙臨時駐車場からしばらく走り、畑薙第二ダム湖畔脇にある赤石温泉・白樺荘に寄り汗を流す。脱衣場は大混雑していた。透明で弱アルカリ性の温泉で気持ち良く、肌がすべすべする。

帰路は新東名の新静岡ICまで往路の道を走る。帰りは道が分っているので順調に新静岡ICに入った。日曜日だが新東名は空いていた。御殿場 JCT から車が多くなり、表示板に横浜・町田 IC から厚木 IC まで11kmの渋滞と出ていた。中井 IC でトイレ休憩後走ると、厚木ICの4km手前から渋滞が始まった。横浜・町田 IC まで行く予定にしていたが厚木ICで東名を下り、順調に自宅に帰着した。

コースタイム

茶臼小屋 5:17—6:27 横窪沢小屋 6:33—6:41 横窪峠—7:27 ウソッコ沢小屋 7:30—(第一)吊橋 8:11—8:30 ヤレヤレ峠 8:33—8:53 畑薙大吊橋—9:00 林道 10:40—(送迎バス)—10:55 畑薙臨時駐車場

(復路) 11:08—11:14 白樺荘 12:04—13:52 新静岡IC—(東名高速)—15:04 中井 PA 15:14—15:32 厚木IC—16:32 自宅

添付資料

赤石岳・聖岳縦走ルート



畑薙大吊橋

以上

# 赤石岳・聖岳縦走ルート

